

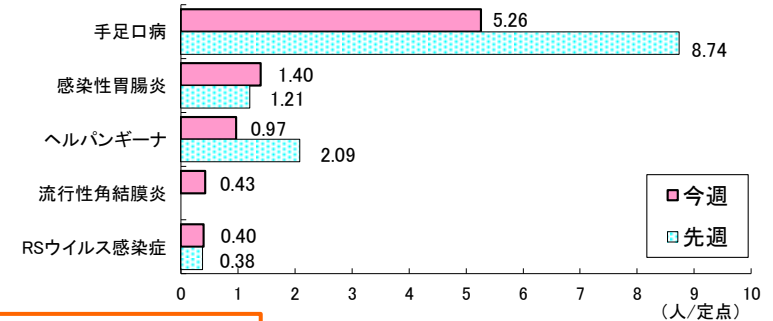


**【第34週の発生動向】**

＜定点把握対象疾患(週報)・前週比＞

- 手足口病は、県全体で40%減少しています。保健所別では、能代、秋田中央で増加、秋田市、大館、北秋田、由利本荘、大仙、横手、湯沢で減少しています。
- 感染性胃腸炎は、県全体で1.2倍に増加しています。保健所別では、秋田市、大館、能代、大仙で増加、秋田中央、横手で同規模、北秋田、由利本荘、湯沢で減少しています。
- ヘルパンギーナは、県全体で54%減少しています。保健所別では、大館、湯沢で増加、能代で同規模、秋田市、北秋田、秋田中央、由利本荘、大仙、横手で減少しています。

秋田県の定点医療機関における主要5疾患の発生規模



**発生報告**

2019年8月29日公表版から一部データを修正しています。

＜五類定点対象疾患(週報)＞

疾患名	秋田県			秋田市			大館			北秋田			能代			秋田中央			由利本荘			大仙			横手			湯沢		
	第33週	第34週	増減	第33週	第34週	増減	第33週	第34週	増減	第33週	第34週	増減	第33週	第34週	増減	第33週	第34週	増減	第33週	第34週	増減	第33週	第34週	増減	第33週	第34週	増減	第33週	第34週	増減
RSウイルス感染症	0.38	0.40	↗	1.50	1.00	↘													0.25	↗	0.25			0.67	1.33	↗	0.25	0.50	↗	
インフルエンザ	0.02	0.04	↗	0.10	0.09	↘		0.14	↗																					
咽頭結膜熱	0.18	0.11	↘	0.17	0.14	↘								0.75	0.50	↘			0.25	↗								0.50		↘
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.53	0.20	↘	0.83	0.29	↘			0.25	↗			0.67		↘							1.00	0.50	↘	1.67	0.33	↘	0.50	0.25	↘
感染性胃腸炎	1.21	1.40	↗	0.83	2.14	↗	1.50	1.75	↗	0.50		↘	3.33	3.67	↗	2.00	2.00		0.50		↘	1.00	1.25	↗	0.33	0.33		1.00	0.50	↘
水痘	0.03		↘							0.50		↘																		
手足口病	8.74	5.26	↘	14.67	5.57	↘	8.25	7.50	↘	6.50	1.50	↘	5.67	7.00	↗	5.00	8.00	↗	6.75	4.75	↘	9.00	2.50	↘	12.67	4.33	↘	6.25	4.25	↘
伝染性紅斑	0.03	0.09	↗	0.17	0.43	↗																								
突発性発しん	0.12	0.29	↗	0.17	0.57	↗		0.25	↗		0.50	↗				0.25		↘	0.25	↗	0.25	0.50	↗	0.33		↘		0.25	↗	
ヘルパンギーナ	2.09	0.97	↘	3.33	1.57	↘	0.25	1.25	↗	1.00		↘	3.00	3.00		2.50	1.75	↘	1.75		↘	1.00		↘	6.00		↘		0.50	↗
流行性耳下腺炎																														
川崎病		0.06	↗											0.67	↗															
急性出血性結膜炎									*	*			*	*		*	*										*	*		
流行性角結膜炎		0.43	↗		1.00	↗				*	*		*	*		*	*										*	*		
細菌性髄膜炎																*	*													
無菌性髄膜炎																*	*													
マイコプラズマ肺炎	0.38	0.13	↘		1.00	↗										*	*		2.00		↘			1.00		↘				
クラミジア肺炎(オウム病を除く)																*	*													
感染性胃腸炎(ロタウイルスによるもの)																*	*													

(注) 表の数値は、観測定点としている県内の医療機関から報告された患者報告数を、1定点あたりに換算した人数を示し、前週と比べて「↗」は増加を、「↘」は減少していることを示します。  
 「\*」印は、当該疾病に関わる定点医療機関が指定されていないことを、空欄は全ての定点で当該週における患者の報告数がなかったことを示します。



発生報告

<全数把握対象疾患>

- ・二類感染症の結核が秋田市保健所管内から1人、秋田中央保健所管内から1人、報告されました。
- ・四類感染症のE型肝炎が能代保健所管内から1人、報告されました。
- ・五類感染症の百日咳が秋田市保健所管内から5人、報告されました。

<全数把握疾患>

類型	疾患名	1週-33週		34週
		全国	秋田	
一類	エボラ出血熱			
	クリミア・コンゴ出血熱			
	痘そう			
	南米出血熱			
	ベスト			
	マールブルグ病			
	ラッサ熱			
二類	急性灰白髄炎			
	結核	13510	67	2
	ジフテリア			
	重症急性呼吸器症候群			
	中東呼吸器症候群			
	鳥インフルエンザ(H5N1)			
	鳥インフルエンザ(H7N9)			
三類	コレラ	3		
	細菌性赤痢	56	1	
	腸管出血性大腸菌感染症	2048	19	
	腸チフス	22		
	バラチフス	11		
四類	E型肝炎	333	2	1
	ウエストナイル熱			
	A型肝炎	301	7	
	エキノкокクス症	13		
	黄熱			
	オウム病	11		
	オムスク出血熱			
	回帰熱	2		
	キャサナル森林病			
	Q熱			
	狂犬病			
	コクシジオイデス症	2		
	サル痘			
	ジカウイルス感染症			
重症熱性血小板減少症候群	63			
腎症候性出血熱				
西部ウマ脳炎				
タニ媒介脳炎				
炭疽				

類型	疾患名	1週-33週		34週
		全国	秋田	
四類	チクングニア熱	19		
	つつが虫病	81	5	
	デング熱	224	1	
	東部ウマ脳炎			
	鳥インフルエンザ(H5N1、H7N9を除く)			
	ニパウイルス感染症			
	日本紅斑熱	132		
	日本脳炎			
	ハンタウイルス肺症候群			
	Bウイルス病			
	鼻疽			
	ブルセラ症	2		
	ベネズエラウマ脳炎			
	ヘンドラウイルス感染症			
	発しんチフス			
	ボツリヌス症	1		
	マラリア	30		
	野兔病			
	ライム病	8		
	リッサウイルス感染症			
リフトバレー熱				
類鼻疽				
レジオネラ症	1385	10		
レプトスピラ症	7			
ロッキー山紅斑熱				
五類	アmeerバ赤痢	543	4	
	ウイルス性肝炎(E型及びA型を除く)	205		
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1283	12	
	急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く)	52		
	急性脳炎	588	4	
	クリプトスポリジウム症	11		
	クロイツフェルト・ヤコブ病	115	1	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	598	3	
	後天性免疫不全症候群	748		
	ジアルジア症	30		
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	380	2	
	侵襲性髄膜炎菌感染症	30		
	侵襲性肺炎球菌感染症	2258	12	
	水痘(入院例に限る)	313	8	
	先天性風しん症候群	3		
	梅毒	4125	15	
	播種性クリプトコックス症	96		
	破傷風	81	2	
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症				
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	47			
百日咳	10733	122	5	
風しん	2108	3		
麻しん	674			
薬剤耐性アシネトバクター感染症	18			

トピック

<O157などによる腸管出血性大腸菌感染症に注意しましょう！>

気温が上昇した7月以降、県内では腸管出血性大腸菌感染症の報告が相次いでいます(表)。しばらくは残暑が続くことが予想されますので、今後も注意が必要です。

■腸管出血性大腸菌

腸管出血性大腸菌は、ペロ毒素と呼ばれる毒素を出す大腸菌です。多くの型があり、O157という型の他にも、O26、O121、O103などの型がよく報告されています。

■症状

感染すると3~5日の潜伏期間の後、激しい腹痛と水のような下痢を起こします。続いて、出血性大腸炎により鮮血の混じった下痢(血便)が出るのが特徴です。子供と高齢者は重症化のリスクが高く、腎不全を伴う溶血性尿毒症候群や脳症といった重い合併症を併発する場合があります。

■予防

- トイレの後や食品を取り扱う際など、日常の手洗いを徹底しましょう。動物の腸内には、腸管出血性大腸菌が存在する場合があります。動物に触れた後も、石けんを使ってよく手を洗いましょう。
- 調理器具(まな板、包丁、ふきん、さいばし、スポンジ等)をよく洗いましょう。生肉を扱う箸やまな板は、他の食材で使用するものと区別したり、熱湯をかけるなどして消毒するようにしましょう。
- 食材は十分な加熱をしましょう。腸管出血性大腸菌は熱に弱く、75℃1分以上の加熱で死滅します。また、調理後は早めに食べるようにしましょう。

\* 腹痛、下痢、おう吐、血便などの症状があったときは、早めに医師の診察を受けてください。自己判断で市販の下痢止めを服用し、重症化した例もあります。

表 秋田県内における腸管出血性大腸菌感染症の月別報告数(2019年)

診断月	報告数(人)	種類	内訳(人)
5月	4	O115	1
		O157	3
6月	1	O103	1
		O26	1
7月	8	O121	2
		O157	4
		O群不明	1
8月*	6	O157	5
		O群不明	1

\* 第34週現在

感染症の集団発生報告

手足口病の集団発生報告が2件ありました。

所在地	施設名称	報告日	有症者数			把握期間	症状
			利用者(園児、入所者等)	職員	計		
北秋田市	鷹巣中央保育園	8/19	117名のうち 10名	31名のうち 0名	10名	8/4 ~ 8/19	発熱、発疹
湯上市	湖岸保育園	8/23	69名のうち 10名	28名のうち 0名	10名	8/9 ~ 8/20	発熱、発疹



**【注意報・警報の発生状況】**

疾患名	注意報	警報
	保健所(発生規模)	保健所(発生規模)
手足口病	-	秋田市(5.57)、大館(7.50)、能代(7.00)、秋田中央(8.00)、由利本荘(4.75)、大仙(2.50)、横手(4.33)、湯沢(4.25)

■ 注意報・警報の定義

**【注意報・警報の定義】**

- 1) 注意報: 流行の発生前であれば今後4週間以内に大きな流行が発生する可能性があることを示し、流行の発生後であればその流行がまだ終わっていない可能性がある(終息していない)ことを示します。
- 2) 警報: 大きな流行の発生・継続が疑われることを示します。

対象疾患	注意報	警報		対象疾患	注意報	警報	
	基準値(人/定点)	開始基準値(人/定点)	継続基準値(人/定点)		基準値(人/定点)	開始基準値(人/定点)	継続基準値(人/定点)
インフルエンザ	10	30	10	伝染性紅斑	-	2	1
咽頭結膜熱	-	3	1	ヘルパンギーナ	-	6	2
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	-	8	4	流行性耳下腺炎	3	6	2
感染性胃腸炎	-	20	12	急性出血性結膜炎	-	1	0.1
水痘	1	2	1	流行性角結膜炎	-	8	4
手足口病	-	5	2				

■ 保健所地域

保健所	所管市町村	保健所	所管市町村
大館保健所	大館市、鹿角市、小坂町	由利本荘保健所	由利本荘市、にかほ市
北秋田保健所	北秋田市、上小阿仁村	大仙保健所	大仙市、仙北市、美郷町
能代保健所	能代市、藤里町、三種町、八峰町	横手保健所	横手市
秋田中央保健所	男鹿市、潟上市、五城目町、八郎潟町、井川町、大潟村	湯沢保健所	湯沢市、羽後町、東成瀬村
秋田市保健所	秋田市		